



松木 源太郎 議員



第3期旭市総合戦略について

問 合計特殊出生率が基準年1・38、目標年で1・80、これはどういうことか。

答 政府が目指す国民希望出生率が1・80となっているので、目標値としたもの。

問 今後、年金の給付だけでは生活できない市民が増えると思われるが、その対策が全くない。社会福祉の充実の具体策は。

答 生活困窮支援の必要性は増加している。本市に無料定額宿泊所のような施設はない。今後の課題としていきたい。

旭市図書館 図書館情報システム再構築業務の公募型プロポーザルの実施について

問 システム再構築業務と県立東部図書館の旭市への移譲は関係あるのか。

答 移譲とは関係ない。移譲については、県が今年度中に東部図書館整備計画を策定し、改修工事後に移譲となると思う。

ハラスメント対策は現在どのようになっているのか

問 令和5年6月議会でハラスメント対策について質問したが、その後の経過を伺う。

答 毎年、職層を変えてハラスメント防止研修を開催するほか、東総地区広域市町村圏事務組合などが開催するハラスメント防止研修にも職員を参加させることにより、ハラスメントによる様々なリスクの再認識を促し、ハラスメントの未然防止を図っている。

問 現在ハラスメントは起こっていないか。それだけの対策を作っているか。

答 一番は相談者の主張に真摯に耳を傾け、丁寧に話を聞く、それが一番である。

会計年度任用職員の労働条件はどのようになっているのか

問 今年の3月末に任期が来た会計年度任用職員について、本人が辞めると言っていないのに辞めさせた。この対応について伺う。

答 1月に継続しない旨の申し出を受け、任期満了をもって退職となった。

RSウイルス感染症に関して

問 令和6年3月には、健康な乳児にも使用できるRSウイルス感染症予防薬ベイフォータスが薬事承認された。こうした新たな予防薬の活用に関して、他の事例を踏まえて今後どのような対策を検討しているのか伺う。

答 ベイフォータスは健康な乳児への使用は保険適用外となるため、自己負担が高額になることが課題とされている。国や県の動向、また他市の取り組みを参考にしながら対応を検討していく。

問 須崎市のように接種費用を全額助成する取り組みを導入できれば、乳幼児の重症化リスクの軽減に加えて保護者の経済的負担の軽減につながるかと考えるが、今後の方針について伺う。

答 須崎市では製薬会社の協力により、欧米で保険適用されている水準の価格で薬剤の供給を受けていると伺っている。旭市に対しても同様の内容が製薬会社



林 晴道 議員



から示されている。自治体と製薬会社の連携による取り組みは、費用を抑えつつ効果的な感染症対策を進める上で有効な手段であると認識している。国や県の動向を注視するとともに、医師会や旭中央病院の先生方と連携しながら、慎重に対応を検討していく。

学校部活動の地域移行に関して

問 子どもたちが本当にやりたい活動ができるように、経済負担ができるだけ少なくて済むような体制の構築を行政主導で行うべきである。指導料など新たな費用も予想されるが、学校部活動と変わらない負担で活動できるように、支援をお願いできないか。

答 経済的な理由等から部活動に参加できないケースが出ることは、絶対にあってはならないと考えている。地域移行を進めるに当たり、可能な限り保護者の負担軽減が可能となるよう全力を注いでいく。全ての中学生が目を輝かせて生き生きと活動できる環境づくりを地域の皆様に協力してもらいながら実現したい。

その他の質問事項

○創意工夫による自主財源の確保に関して
○旭市役所の職員に関して

QRコードを読み取ると、質問した議員の録画映像がご覧いただけます。